

【中国経営の参考書籍】

今月号にご紹介する書籍は、中国との貿易や交渉・取引等で、大変に苦労した女性の仕事話で、映画化にもなった「中国てなもんや商社」のアノ筆者が、北京大学で体験した留学; 珍道中記になります。 ショッキングな場面・出来事も、マタ、泣かせる言葉もあります。

「北京大学てなもんや留学記」 谷崎 光 ; 文春文庫: ¥649

てなもんやシリーズの 3 になります。 本人いわく「中国とのバトル」を描き、中国の首都; 北京にある中国中の優秀な大学生が集まっている北京大学での出来事です。 若く、優秀な中国人の傾向や性質等も知る事が出来ますので、中国の将来を見渡すための参考資料になります。

知日教授のSM的な「日本経済」授業

; 50 代の女性教授で、小学生の時に高い知能指数で選伐され、日本語学習者になり、日本には1年間住んでいた。

- * 中国文系の最高学府; 北大(北京大学)でも、老師(先生)が生き残るために最重要な点は研究でなく「政府の顔色を見る」処世術になり、授業は大量の暗記・大量書籍の講義で、作文さえも定型化されている。 **授業は面白くない!**
- * それでも「締め付けがゆるくて、自由」なのが北大の良い所で、管理も緩い
- * 就職難で「北大・清華は2流大」と自嘲するが、基本的には現代中国の最良階層で、**時間を守り、礼儀もあり、意欲とユーモアもある** (清華大は、もう一方の有力大学)
- * 老教授は、教養豊かだが、授業に新しいことを取り入れるのは、やはり無理です
- * 経済学国際貿易の授業への提案として、
 - ・ 貿易の国際共通ルールを学ぶ
 - ・ 紛争解決の概略や事例関連の国際法をおおまかに知る
 - ・ 上記の2点を理解するために、貿易実務の概要を学ぶ
= 学生は、なにしろ貿易信用状も知らない
- * 共産党独裁の中国で「経済学」は難しい。それよりも政府役人を探して、一緒にご飯を食べた方が「経済効率」は高い
- * 知っていても政府におもねり、「日本には労組が無く、経営者に搾取されている」との嘘情報ばかりを学生に与える老師も多い
- * 逆に、日本国民の特徴としては、公私を区別して、ルールを守り、儉約節約して貯蓄率も高い。そして、**心配性で雨が降らぬうちに、窓を修理する**

- * 更に、日本では汚職が少なく、『一般人が役人から賄賂を要求され、開業時に役人へ金銭を渡す事は、マズ、有りません』

=この回答に、女子学生は『ぶっ飛んだ』顔になり、今でも忘れられない！！

「ええっ！ 本当に？ 本当ですか？」そして、老師と筆者と日系企業の勤務者;3名がかりで説得して、ヤット、信じる

- * 「出産許可書・小学校入学・成績表の発行・開業許可」と賄賂が当たり前だと思っている学生達には、普通の先進国を理解できない。=日本のクリーン度は、さほど高くない！（現在、大分県の教師採用が大問題で中国や中国人を笑えない！）
- * 更に、大驚愕したのは「えー！ 入社時に契約書がないのですか？」「本当に？ ホント！」
=教授の回答は「そうです。盲目的な契約で、日本人は自分の人生を売るので」
- * 日本に関しては、識字率の高さ、進学率の高さ、科学技術方面も論文発表件数が世界2位とも教える
- * その教授が最も悲憤慷慨するのは、日本人の高い給与です。でも、日本は清潔で便利なのが良。もう一度、行きたい
- * 日本語学科の女子学生に「NON・NO」をあげたら大喜びで、何度も「本当に返さなくて良いのですか？」と聞かれる。「日本語学科の全員で毎晩見えています」
- * その女子学生は、物事に躊躇せずに、利と欲に合理的に一直線です
- * 経済系の老師に「中国経済の特徴は何ですか？」と質問するが、『中国の老師が答える訳に行かない質問』で、返事は有りません
- * 北大の学生は、中国の若者代表との自負が高い。しかし、「現代中国」を最も知らないのは中国人である
- * インテリでも「全体から、その事例の意味を判断する」習慣に欠ける
- * 「科学技術」の意味知っていますか？ 『中国にはそんなものは、1つもありやしない！』と中国人社長;生徒の言い草です
- * NYの「9/11」事件の時、いっせいに、学生達から「喜びの声」が上がった
- * 北京の清華大学は、良くも悪くも政府の言いなりで、もう一方の北大は緩々の管理で「北大瘋子=イカしてる奴」も生まれる
- * 老師も、『北大』は「1流の学生・2流の老師・3流の管理」と自嘲する
- * 中国の「礼」とは、礼儀=しきたり、礼貌=日本人の礼儀、礼品=贈物・賄賂です
- * 国営企業改革の授業で、老師は機を見計らい「国有企業を改革する事は、政府を改革する事だ！」と言うと、この程度でも政府批判だから学生達が大喜びする

将来、賄賂を受け取る

- * 役人になる人が多い北大生に、卒業後の切実な問題は「汚職に関わるか、否か」
= **汚職をしない方が危険だ！** ;10人中の9人まで汚職している環境で、1人だけ清潔だと9人から陥れられる

- * 中国では、子供の時から騙され続けているので、一番酷いのは中国。メディアに流れている反吐が出る「美しい言葉」と「現実」との乖離の中で育ってきた
- * なぜ、役人が腐敗するのか？ = 権限大きいからだ。何でも決められる。何でも出来る。権限も集中しすぎているので、ダレも管理できない
- * 学生はほとんど全員、共産党が嫌いだし、政府批判が好きな話題だが、役人試験に殺到する。理由は、安定性と灰色収入で、共産党員は「黨員になって、様々な優遇」を知るようだ
- * 大学生活の4年間で、最低学費が2万元、寮費・その他で3~4万元で「合計;5~6万元」は必要です (貧乏人の子供だと進学は難しい)
- * 中国では、「悪事」の概念が日本とは違っている。ちょっと仲良くなるとすぐ、裏口を紹介される = 給与が安いから当然で、上部ほどモットやっている
- * 中国のようなものすごい、不平等下で働く場合では、ささやかな不正行為は正当かも？
- * 技術とノウ・ハウ移転が済んだら、じゃまな「外資」は国が追い出しにかかる

世代人材に関して

70 才以上;青春時代は戦争や苦しい時期もあり、貧しかったが、理想を追うことが出来た。ある面では一番良い時代に生きた。この世代は、極端な拝金主義も少なく、思いやりを持っている。

- ・ 日本に一番酷い事をされた、お爺さんやお婆さん達が一番優しい
- ・ 一番辛かったのは、信じていた毛沢東や国が実は自分達を欺いていたと気が付いた時だ
- ・ 過酷な目にあわせた中国を、それでも心から愛している人が多い

文革後の 20 代 ~ 30 代前半の若者;清潔な所を持ち、正当な方法で稼ぎ、お金を儲けようとする。親の苦勞を知っている

文革世代の 40 才 ~ 60 才;飢餓・文革の裏切り・殺し合いを見て育ったので、何でも有り。一度掴んだ物は心でも放さない。中国人が餓死していようが、心を微塵も揺るがせず、割り切って生きる

中国の将来に関して

「有史以来、庶民が一番食えている時代」
 生きるために必死で、農民は無学状態
 共産党の権力は絶大
 若い世代ほど、人間的にまともな人が増加

以上の理由で、中国は自滅しない!

嗚呼、医は仁術

- * 診察料は3元だが、医療費は高い = 入場料は安く、後で吊り上げるタイプ
- * 普通の人には、病院は金銭面で「コワイ所」で、医は算術です
- * 北京の大気汚染は恐ろしくて、オリンピックで倒れる運動選手が出てくると予想する
- * 大連育ちの30代後半の医者から、「子供の頃、台湾は貧しく食物がないと信じ込まされていた。現実を知ってみたら、食物がなかったのは中国で、大連でまともな建設は日本時代の建物だけだ」

- * 中国製品の実力は、ブランドメーカーの大型得意家電「ハイアールのクーラー・小天鵝の洗濯機等」以外は、美的やレノボ等でも直ぐ故障する
- * TV局勤務者から、「日本を頻繁に扱下ろさないと出世できない」
- * 北京の日本大使館には、日本語も出来ないカラオケ出身の小姐(風俗出身の女性)が勤めていたとの噂は本当かもしれない
- * 中国や中国人では、反日は当たり前です。日本が取るに足らない弱者になり、中国から反日がなくなる日が一番怖い
- * 海外メディアに向かって本音を言うほど、中国人はお人好しではない。そんな事をすれば、ほんの10数年前まで、逮捕され、拷問されていた

中国生活

- * 電球がパーンと爆発したり、停電したり、事務椅子が空中分解したり、風が吹いて閉まったドアが二度と開かない そんな事が頻繁に起こる
- * 部屋探して、大型の新品ガス湯沸かし器が付いていたら、「最初の人体実験者」の代名詞です
- * 北京でヒューレットパカードに問合せました。「間違いなく本物を買える店舗」を尋ねたら、『**中関村で100%信用できる小売店は、1軒もありません!**』 ;中関村は、北京の有名なIT・PCエリアです
- * 日系企業は、給与が低く、日本人駐在者は短期で入れ変わるし、業績と給与は関係ないので、評判は悪い!
- * 中国人学生と話をすると、新興宗教に入信した友達のように、何を言ってもムダ!と思えるようなコミュニケーションの壁にぶつかる
- * 多数の中国人の潜在意識では、「**日本と韓国は、属国**」と思っている

丁寧に、細やかに、用意周到に行うことは苦手だが、自分の利益に直結する目標や必要があれば、大変な苦勞に耐えるし、若くても驚くほどの事が出来る。

何も確認せず、穴だらけで正解率は低いが、決断と実行は早い

就職人気

- 1番人気は欧米系。給与が高く、仕事の要求は厳しい
 - 2番人気は日系。給与がわりと高く、仕事の要求は厳しい
 - 3番人気は韓国・香港系。給与はそこそこで、仕事の要求は欧米・日系より厳しい
 - 最低人気は台湾系。給与はローカル並で、仕事の要求は最も厳しい
- * アメリカ、自由・平等・経済発展・科学技術開発トップで、がんばりさえすれば直ぐリターンがある国。アメリカ留学は、多数の大学生の夢で、心底アメリカが嫌いな奴は少ない
 - * アメリカを罵倒しながら、アメリカの会社に入社したがる。日本を罵倒しながら、日本製品を欲しがらる。腐敗に怒りつつ役人試験に殺到して、民間でも政府でも企業でも賄賂から無縁でいられない

最後のページに書かれていたのは、次の文章でした。

本書における個人名は全て仮名です。一部の個人のプロフィール等を変更しています。

日本の書店でも、中国関連の書籍や記事が多く掲載されています。その中身は2分されていて、中国の未来は「**明るい派**」と「**暗い派**」の半分ずつになっています。筆者は間違いなく、「**明るい派**」で「**中国と中国人**」大好き派です。

8月の下旬ですと、北京オリンピックも終盤に入っていますので、競技会場に「日の丸」が多く上がる事を祈っていますが、重大な事件・テロが起きていない事も願っています。

(F:記)

OVTA アドバイザー
「OVTA-Chinaメンバー」